

ハンコック

2008(平成20)年8月15日鑑賞〈ソニー・ピクチャーズ試写室〉

★★★



監督=ピーター・バーグ/出演=ウィル・スミス/シャーリーズ・セロン/ジェイソン・ベイトマン/ジョニー・ガレッキ/トーマス・レノン/ジェイ・ヘッド/エディ・マーサン(ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント配給/2008年アメリカ映画/92分)

第1章

目立っただのは米中合作

……ヒット王ウィル・スミスが、一風変わったヒーローとして大活躍！ あり余るパワーで犯罪者をこらしめているのに、彼が市民から嫌われるのは一体なぜ？ 嫌われ者からヒーローへの変身は、どのようにすれば可能？ シャーリーズ・セロンとのあっと驚く秘密がこの映画のカギだが、それは絶対内緒！ それはあなた自身の目で……。

ヒット、ヒット、大ヒット！

08年8月13日にダルビッシュの先発で初戦となった強豪キューバ戦に完敗した星野ジャパンは、やっと翌14日に第2戦の台湾戦で「快勝」したが、それは9回表に4点差をつけることができたため。つまり8回裏までは1点差で岩瀬と藤川をつぎ込み、ギリギリの逃げ込みをかける苦しい展開だったのだ。それもこれも、ヒット、ヒットの連打が続かなかったため。したがって、今後の星野ジャパンは私の目には不安がいっぱい。

ところが、前人未到の主演8作品連続1億ドル超えという快挙を達成したウィル・スミス主演の『幸せのちから』(06年)は28億円、『アイ・アム・レジェンド』(07年)は43億円の興行収入をあげているから、ヒットの連続。そして、アメリカで08年7月4日に公開された『ハンコック』は、週末3日間で約70億円をあげるという大ヒットに。作品の出来としては『幸せのちから』は星4つ、『アイ・アム・レジェンド』は星2つと私の評価は必ずしも高くなかった(『シネマルーム13』257頁、『シネマルーム18』369頁参照)が、これだけヒット、ヒット、大ヒットが続けば、しばらくはウィル・スミスの天下が続くことまちがいなし……？

アメリカのヒーローもサマ変わり……？

「アメコミもの」のヒーローは、日本の「月光仮面」と同じように、正義の味方でカッコいいものと相場が決まっていたが、去る8月10日に観た『ダークナイト』（08年）における“バットマン”を観れば、それが大きくサマ変わりしていることがよくわかる。それはきっとアメリカが不安な時代に入り、1つの絶対的な価値観を国民が単純に信用できなくなったせい……？ そんな傾向を受けて(?)、この映画のヒーロー“ハンコック”は、どんな危機的状況に対応して正義の味方として登場し、凶悪事件を解決しても、それが独りよがりの自己満足のなやり方であるため、かえってまぢや、まぢの人々に損害を与えてしまうため、市民の評判はガタ落ちという状況らしい。

こんな活躍ぶりでは……？

ハンコックにしてみれば、「そんなんじゃ、やってられないよ」と言いたいところだろうが、冒頭で強盗たちをやっつける無茶苦茶なシーンをみれば、私もそんな市民の評価に賛成。またPR会社で働くレイ・エンブリー（ジェイソン・ベイトマン）が、踏み切りであわや列車に轢かれそうになったところに現れたハンコックの救助方法をみていると、こいつの頭は単細胞で、要するに並はずれたパワーを適当に使っているだけと思わざるをえない。レイはハンコックのおかげで命だけは助かったものの車はメチャクチャ。またグチャグチャに破壊されてしまった列車やたくさんの車の所有者そして市民から、ハンコックが激しいブーイングを浴びたのは当然だろう。

ところが、それに対するハンコックの反応がまた悪い。言葉が悪い、態度が悪い、そしてウイスキーの瓶を手放さない酒臭い男では、誰からも支持されるスーパーヒーローになるのはとてもムリ……？

ピンクのハートマークはうさんくさそうだが……

最近では日本でもコンサルティング業務が拡大しているが、レイのようなPR会社はまだ少ないはず。レイのプレゼン能力はたしかにすばらしいが、彼が今大企業の役員たちに向かって、一生懸命に説いている、ピンクのハートマークによる企業価値の向上というアピールはイマイチ……？

しかし、そんな仕事に従事しているレイだからこそ、ハンコックがすごいパワーと

人々の役に立ちたいという意欲を持ちながら、市民から愛されるヒーローになれない理由を理解すると共にその改善の方向もしっかりと見えていたようだ。そこで、レイが出した大胆な提案は、これまでまちに与えた損害を謝罪し、一度刑務所に入って罪を償った後に社会復帰するというもの。そういわれてみると、レイの目の付けどころはたしかに鋭い。それまでのハンコックの行動は、市民の目からみれば、いわば正義の味方の「押し売り」であり、はっきりいってそのパワーは大迷惑となっていたわけだ。しかし、そのハンコックがいなくなり、世の中に犯罪者があふれ始めると、再び市民は犯罪者をこらしめてくれるヒーローであるハンコック待望論となるわけだ。さて、こんな一見無茶苦茶なレイの「アドバイス」にハンコックは従うのだろうか……？ 近い将来、天下分け目の政治決戦を控えている今、自民党も民主党もその選挙戦略を練るうえで、レイのようなPRマンの活用を考える必要があるのでは……？

シャーリーズ・セロンに注目!!

『モンスター』（03年）でアカデミー賞主演女優賞を受賞したシャーリーズ・セロンの女優根性は続く『スタンドアップ』（05年）でも発揮され、この2作は共に私の評価は星5つ（『シネマルーム6』238頁、『シネマルーム9』186頁参照）。彼女が出演した『ミニミニ大作戦』（03年）は星4つ（『シネマルーム3』300頁参照）。最近の『告発のとき』（07年）は星4つとまずまずだが、その存在感は私の目にはイマイチ。シャーリーズ・セロンがウィル・スミスと共演するのは、2年ぶり2度目らしいが、そもそもなぜハリウッド女優を代表するシャーリーズ・セロンが『モンスター』や『スタンドアップ』のような問題提起作とは全然異質のこんなアメコミ風のヒーローものに出演したの？ シャーリーズ・セロン扮するメアリーはレイの命を助けてくれたハンコックを自宅に連れてきたところで、「ご対面」となるわけだが、一人息子アーロン（ジェイ・ヘッド）を持つ人妻メアリーはさすがに輝くような美しさ。しかし単にレイの妻としてハンコックを家の中で接待するだけでは、シャーリーズ・セロンの役柄としては不足なことは明らか。そこで気になるのが、ハンコックが家の中に入ってきたときから何やら迷惑そうな素振りをしているメアリーの姿、これはきっと何かウラがありそう。そう思ったら、なんともすごいウラが……？ それがこの映画のメインストーリーだが、それはここでは絶対内緒。したがって、この映画の評論は中途半端だが、これにてジ・エンド。 2008(平成20)年8月16日記